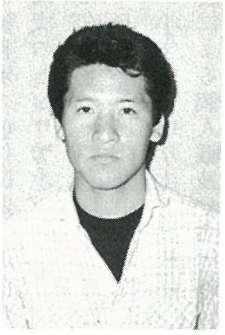
洋上青年大学体験記

六月十三日（金）から十七日（火）にかけて、県教委主催による洋上青年教養大学が開催され、約二百名の青年達が千葉～和歌山～小豆島～大島～千葉と船に揺られ、青年団体運営リーダーとして、或はレクリェーションリーダーとしてさまざまな研修をつみました。

光町からも次の二名が参加し体験記を寄稿してくれましたのでご紹介いたします。

洋上大学

谷中　越川克男



六月十三日～十七日に、県下青年の中堅リーダーを対象とした第十回洋上青年大学に参加した。

わが光町青年クラブからは二名の参加だった。

和歌山県の青年団の人達との交歓会で、私はどの地方の青年団でも私達と同じ悩み（集まりが悪い〈特に奉仕活動〉とか、団員数が少ないなど）があるのだと思った。

しかし、この集まりが悪いというのは、団員自身が仕事を持っていて余裕がないのかもしれないが、それは自分で時間をつくって積極的に集まってくるように、役員会などで話し合って活動していけば他の諸問題とともに解決していくのではないのかな？　と思った。

何となく参加した洋上大学ではあるが、多くの人と友達になれ、研修を通して自分にとって身につくものの多かったこの体験をむだにしないようにしたいと思う。

船を降りてからビールで乾杯し、また会う約束をしてみんなと別れた。

とてもいい思い出となったこの洋上大学に、来年も光町から参加して頑張ってきてもらいたいと思う。

洋上バンザイ！

〈感想…疲れた～〉

洋上大学に参加して

尾垂　伊藤政良

洋上大学は六月十三日から十七日まで行われ、私はレクリェーションリーダー研修に参加しました。

この洋上大学に参加して思ったことを二つ挙げます。

第一に、私たちレク班はレク活動の講義から実際の演出まで行いました。

眠いのをがまんして聞いた講義をもとに最後の夜のつどいのプログラムを作り、準備を整え演出をしました。

この中で私は、一つの行事を行う場合の個々の役割と、リーダーの重要性を改めて認識しました。

青年団体を発展させていくには、レク活動は無くてはならないものだと思います。

第二に、たくさんの人達と知り合えました。

人と接する機会の少ない私にとって、新しい仲間ができたことは喜ばしいことです。

いろいろな職業、考え方を持った人達とあいさつを交わし、時間のたつのもわすれて語り合いました。

政まって話し合いをすることのない私達には、とてもよい勉強になりました。

歴史の散歩 (10)

七夕馬

七月七日又は八月七日は、七夕です。現在あまり見られませんが、この時期になるとどこの家でもマコモ（マグモ）製の七夕馬を作ります。

昭和三十年十二月の南条中学校誌「暁鐘」に掲載の飯島実さんの作文から当時の様子を見てみましょう。

『……いよいよ今日は七夕祭の朝である。妹は早く起きて、馬を引いてみたが一人でいけないので「あんちゃん草かりに行こうよ」と僕をしきりに起す。……しばらくして帰ってみるともう御飯の仕度がすっかりできていたので七夕様の馬や牛にお茶やごはんをやって僕らも家族揃って御飯を食べる。……今年七夕祭が終ると馬は屋根の上に上げるのであるが今年は大きすぎて上げられないので、牛だけ上げて置いた。……』

この馬は、東北、関東、北陸、信州にまで分布し、作り方や形態、意味も異なっています。

屋根に投げ上げることは、天災、火災、盗難からその家を守る守護神的な意味と、供物をすることから当時使われていた農耕のため働く牛馬を慰労する意味があると言われます。また、お盆の七日前であることから物忌みの開始に合せて身のけがれや悪霊を馬にのせて送り出すとも言われます。

この馬の発生については、定かではありませんが東北地方に多いことから出羽三山と往来のあった山伏や行者が持ち帰り、当地方に多くあったマコモを使用して作るようになったと言われています。

農業の機械化、経済の成長とともにマコモ馬は意味を失い、伝承されることもなく消えようとしています。